

氏名	岸本陽子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5020 号
学位授与の日付	平成 26 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Group involvement and self-rated health among the Japanese elderly: an examination of bonding and bridging social capital
(日本人高齢者におけるグループ参加と主観的健康：結合型ソーシャルキャピタルと橋渡し型ソーシャルキャピタルの検討)

論文審査委員 教授 荻野 景規 教授 浜田 淳 教授 片岡 仁美

学位論文内容の要旨

ソーシャル・キャピタルは、健康への影響が異なっていると考えられている、結合型ソーシャル・キャピタルと橋渡し型ソーシャル・キャピタルに区別される。結合型ソーシャル・キャピタルとは、社会的特性が似通っている人々との信頼や協力関係のことを言い、橋渡し型ソーシャル・キャピタルは、社会的特性が異なっている人々とのつながりのことを言う。岡山県の農村部に在住の高齢者において、結合型／橋渡し型ソーシャル・キャピタルが、健康指標の一つである主観的健康にどの様に影響するかを検証した。その結果、男性高齢者は、結合型・橋渡し型ソーシャル・キャピタルから共に健康に良い影響を受け、女性高齢者は、結合型ソーシャル・キャピタルから健康に良い影響を受けるということが示唆された。社会経済的背景が異なると、結果が異なることが先行研究より示唆されているので、今後は都市部の高齢者についても検証する必要があると考えられる。

論文審査結果の要旨

岡山県の農村部に在住する 21,232 人の高齢者を対象に、性別、年齢、職種の点で様々か（橋渡し型）、だいたい似ているか（結合型）の聴取により、結合型／橋渡し型ソーシャル・キャピタルを分別し、ソーシャル・キャピタルの主観的健康に対する影響を、ロジステック回帰分析で検証した。その結果、回収率 65.6% で、最終的解析対象者は、11,146 人であり、男性高齢者は、結合型・橋渡し型ソーシャル・キャピタルから共に健康に良い影響を受け、女性高齢者は、結合型ソーシャル・キャピタルから健康に良い影響を受けるということが示唆された。地域を評価する一つ的手段として、ソーシャル・キャピタルが注目され、健康との関連性を検証したことから、本研究は、公衆衛生学的に、価値あるものと評価された。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。